

新・将棋倶楽部

取扱説明書

SHVC-AHJJ-JPN

hector
Playing Interface

株式会社 ヘクト

〒171 東京都豊島区高松1-11-16 西池袋フジタビル
PHONE.03-3956-2719 FAX.03-3956-7002

FOR SALE AND USE IN JAPAN ONLY AND COMMERCIAL RENTAL PROHIBITED.

本品は日本国内だけの販売および使用とし、
また商業目的の賃貸は禁止されています。

©HECT 1995

©NATSU-SYSTEM 1995

ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みになって、
正しい使用方法でお楽しみください。

警告

疲れた状態や、連続して長時間にわたるご使用は、健康上好ましくありませんので避けてください。ごまねに、強い光の刺激や、点滅を受けたり、テレビ画面等を見たりしている時に、一時的に筋肉のけいれんや意識の喪失等の症状を経験する人がいます。こうした症状を経験した人は、ゲームをする前に必ず医師と相談してください。また、ゲームをしていて、このような症状が起きた場合には、ゲームを止め、医師の診察を受けてください。

ゲームをしていて、手や腕に疲労、不快や痛みを感じた時は、ゲームを中止してください。その後も痛みや不快感が続いている場合は、医師の診察を受けてください。それを怠った場合、長期にわたる障害を引き起こす可能性があります。他の要因により、手や腕の一部に傷害が認められたり、疲れている場合には、ゲームをすることによって、悪化する可能性があります。そのような場合は、ゲームをする前に医師に相談してください。

注意

- 健康のため、ゲーム画面からできるだけ離れてご使用ください。
- 長時間使用する時は、適度に休憩してください。めやすとして1時間ごとに10～15分の小休止をおすすめします。

使用上のお願い

- ご使用後はACアダプタをコンセントから必ず抜いておいてください。
- 精密機器ですので、極端な温度条件下での使用や、保管及び強いショックを避けてください。また絶対に分解しないでください。
- 端子部に手を触れたり、水にぬらすなど、汚さないようにしてください。故障の原因となります。
- シンナー、ベンジン、アルコール等の揮発油でふかないでください。

コントローラーの操作方法



- ➕ボタン……カーソルや駒の移動。
- Aボタン……コマンドの決定。
- Bボタン……コマンドのキャンセル。
- Xボタン……駒台へのカーソル移動。
- Yボタン……音声/音楽の切り替え。
- Rボタン……将棋盤の切り替え(3種類あります)。
- Lボタン……棋勢のカラー表示。
- スタートボタン……ゲームスタート。
対局中の研究/投了。
- セレクトボタン……使用しません。

※上記ボタン操作は、コンピュータの思考中は、使用できません。

ゲームスタート

電源を入れると、しばらくしてタイトル画面にかかります。ここでスタートボタンかAボタンを押してゲームをスタートします。

○ゲームモードの選択○

下記の3つの中でプレイしたい対局を選択します。
プレイヤー対コンピュータ……プレイヤーがコンピュータと対局します。
プレイヤー対プレイヤー……2プレイヤー対局をします。
コンピュータ対コンピュータ……コンピュータ同士の対局を観戦します。

○「先手」、「後手」の選択○

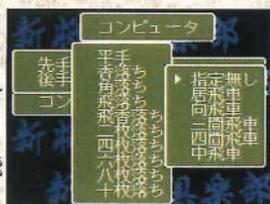
プレイヤー対コンピュータのとき、あなたが「先手」になるか「後手」になるか選択します。なお、2プレイヤー対局のときは、コントローラー1を使用するプレイヤーが「先手」となります。

○駒落ち戦の設定○

平手か駒落ち戦か設定します。駒落ち戦は次の9通りあります。
香落ち/角落ち/飛落ち/飛香落ち/二枚落ち/四枚落ち/六枚落ち/八枚落ち/十枚落ち

○コンピュータの戦法の設定○

相手となるコンピュータの戦法を設定することができます。戦法指定は次の5通りあります。なお、コンピュータ同士の対戦の場合はコンピュータ2の戦法を設定します。
居飛車/向飛車/三間飛車/四間飛車/中飛車



対局画面

設定したら、いよいよ対局がはじまります。➕ボタンで指したい駒にあわせAボタンを押した後、指したいところに駒を移動させAボタンを押します。なお、指す駒を変更するときはBボタンでキャンセルすることができますが、駒を指し終えた後、手を取りやめることはできませんので注意しましょう。



[対局中できること]

○研究/投了……スタートボタン○

“コンピュータ対コンピュータ”以外の対局の場合、対局中、画面下側の指し手のときスタートボタンを押すと、「研究」か「投了」をすることができます。誤ってウインドウを開いたら、Bボタンでキャンセルします。
研究……対局を一度止め、自分と相手の駒を好きなように動かしながら以降の局面を研究できます。研究し終わったら、画面下側の指し手のときスタートボタンを押して「対局」を選び、止めた局面に戻して再開するか、進めた局面のまま再開するかを選択します。
投了……投了するときに選択します。

○将棋盤の切り替え……Rボタン○

対局中にRボタンを押すと、将棋盤を切り替えることができます。

○棋勢の表示……Lボタン○

対局中にLボタンを押すと、棋勢を色分けて表示させることができます。赤色で画面上側の棋勢範囲を、緑色で画面下側の棋勢範囲を表示します。判断が難しいとき、次の一手に困ったとき、この機能を役立てましょう。再度Lボタンを押すと、表示が消えます。

[投了したら……]

○感想戦○

投了したら、感想戦で今の対局を最初から再現することができます。感想戦は“コンピュータ対コンピュータ”の場合と同じウインドウが表示されます。同様にコマンドを選択しながら、対局を進めましょう。

コンピュータ対コンピュータの場合

コンピュータ同士の対局を観戦する場合は、ウインドウ内のコマンドを選択しながら対局を進めます。なお、「戻る」と「指継」はコンピュータ1の指し手のときのみ選択できます。
進む……1手ずつ手を進めます。
戻る……2手ずつ手を戻します。
指継……コンピュータを指し継ぎ、手を進めます。
投了……投了します。